

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

令和3年の我が国の漁業・養殖業の生産量は415万7,778 tで、前年に比べ7万8,127 t (1.8%) 減少した。

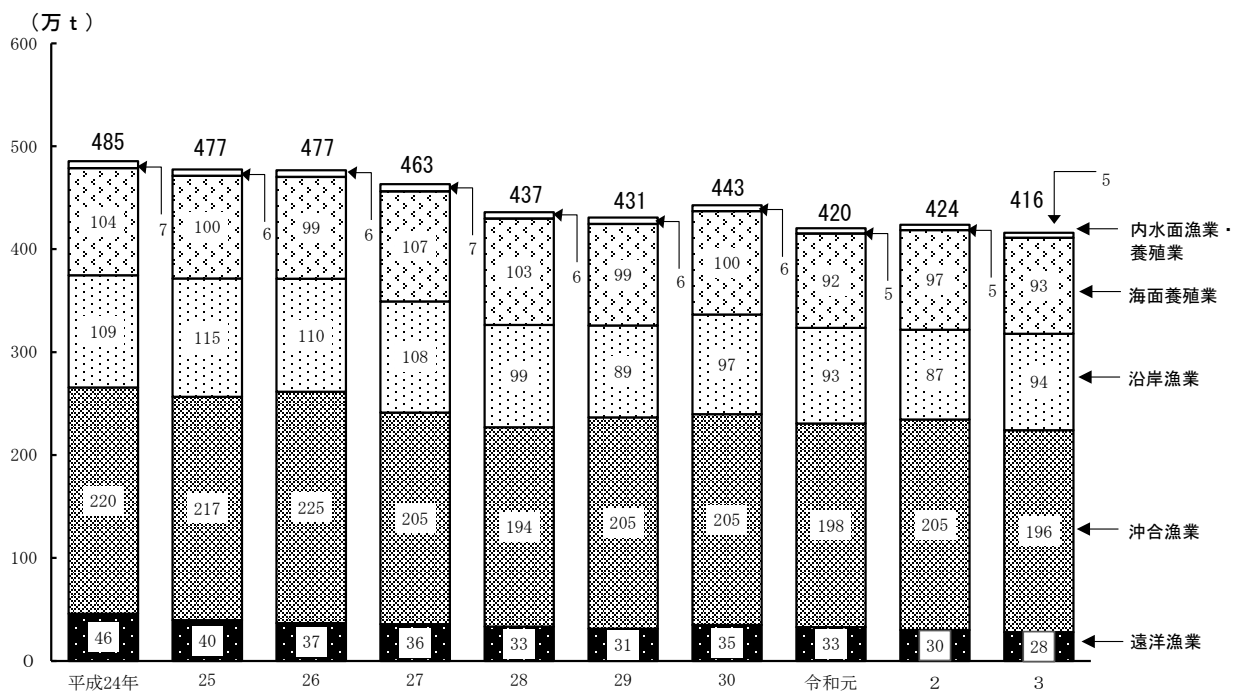
このうち、海面漁業の漁獲量は317万9,380 tで、前年に比べ3万6,044 t (1.1%) 減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は27万8,766 tで、前年に比べ1万9,675 t (6.6%) 減少、沖合漁業は196万3,232 tで、前年に比べ8万2,774 t (4.0%) 減少、沿岸漁業は93万7,383 tで、前年に比べ6万6,406 t (7.6%) 増加した。

また、海面養殖業の収穫量は92万6,641 tで、前年に比べ4万3,008 t (4.4%) 減少した。

内水面漁業・養殖業の生産量は5万1,757 tで、前年に比べ925 t (1.8%) 増加した。

図1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない場合がある（以下同じ。）。

2 海面漁業

海面漁業の漁獲量は317万9,380 tで、前年に比べ3万6,044 t (1.1%) 減少した。

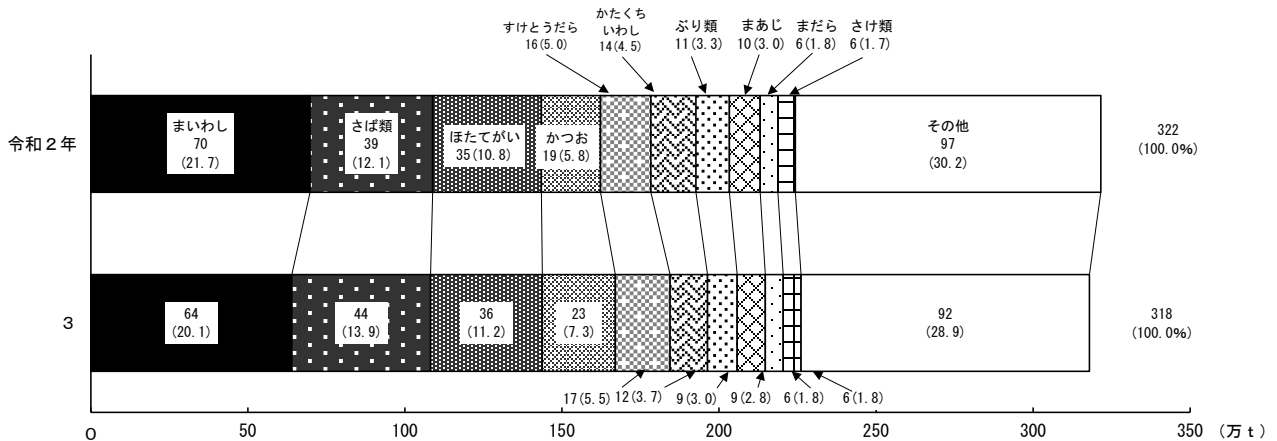
東日本大震災で漁船や漁港施設に甚大な被害を受けた岩手県の漁獲量は7万9,709 tであり、前年に比べて1万4,026 t (21.4%) 増加、宮城県の漁獲量は18万4,316 tであり、前年に比べて1万8,004 t (10.8%) 増加した。また、福島県の漁獲量は6万2,660 tであり、前年に比べて8,845 t (12.4%) 減少した。

主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、さば類、ほたてがい、かつお、すけとうだら、まだら、さけ類であり、減少した主な魚種は、まいわし、かたくちいわし、ぶり類、まあじであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、まいわしが20.1%、さば類が13.9%、ほたてがいが11.2%、かつおが7.3%、すけとうだらが5.5%、かたくちいわしが3.7%、ぶり類が3.0%、まあじが2.8%、まだらが1.8%、さけ類が1.8%となった。

図2 海面漁業主要魚種別漁獲量



(1) まいわし

漁獲量は63万9,927 tで、前年に比べ5万8,362 t (8.4%) 減少した。

これは、三重県等で減少したためである。

(2) さば類

漁獲量は44万1,837 tで、前年に比べ5万1,541 t (13.2%) 増加した。

これは、長崎県、宮城県等で増加したためである。

(3) ほたてがい

漁獲量は35万5,950 tで、前年に比べ9,937 t (2.9%) 増加した。

(4) かつお

漁獲量は23万2,270 tで、前年に比べ4万4,334 t (23.6%) 増加した。

これは、静岡県、宮崎県等で増加したためである。

- (5) すけとうだら
漁獲量は17万4,525 tで、前年に比べて1万4,200 t (8.9%) 増加した。
これは、北海道等で増加したためである。
- (6) かたくちいわし
漁獲量は11万8,923 tで、前年に比べ2万4,911 t (17.3%) 減少した。
これは、愛知県、三重県等で減少したためである。
- (7) ぶり類
漁獲量は9万4,608 tで、前年に比べ1万1,707 t (11.0%) 減少した。
これは、岩手県等で減少したためである。
- (8) まあじ
漁獲量は8万9,615 tで、前年に比べ8,275 t (8.5%) 減少した。
これは、島根県等で減少したためである。
- (9) まだら
漁獲量は5万6,950 tで、前年に比べ644 t (1.1%) 増加した。
- (10) さけ類
漁獲量は5万6,658 tで、前年に比べ663 t (1.2%) 増加した。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
(上位1位～5位)

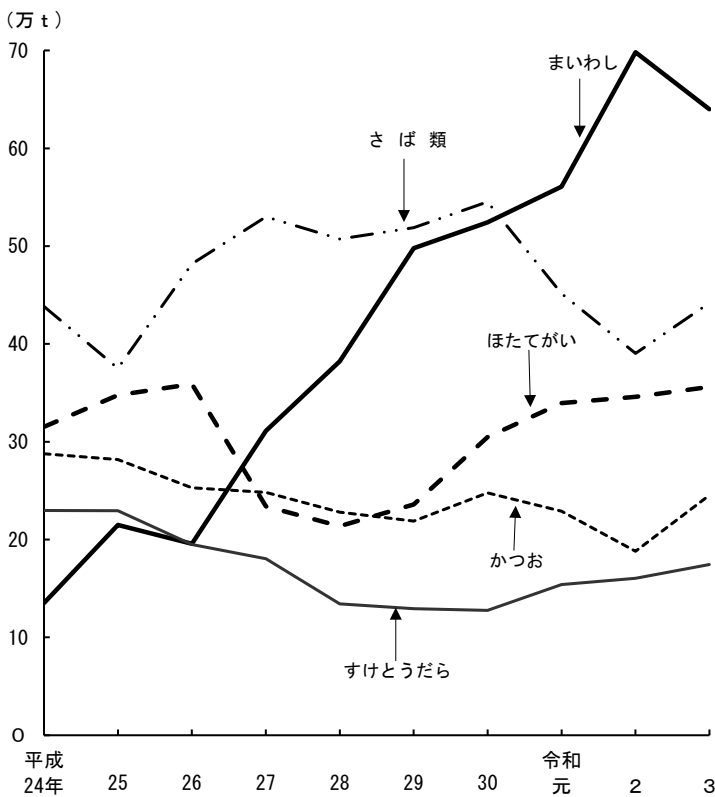
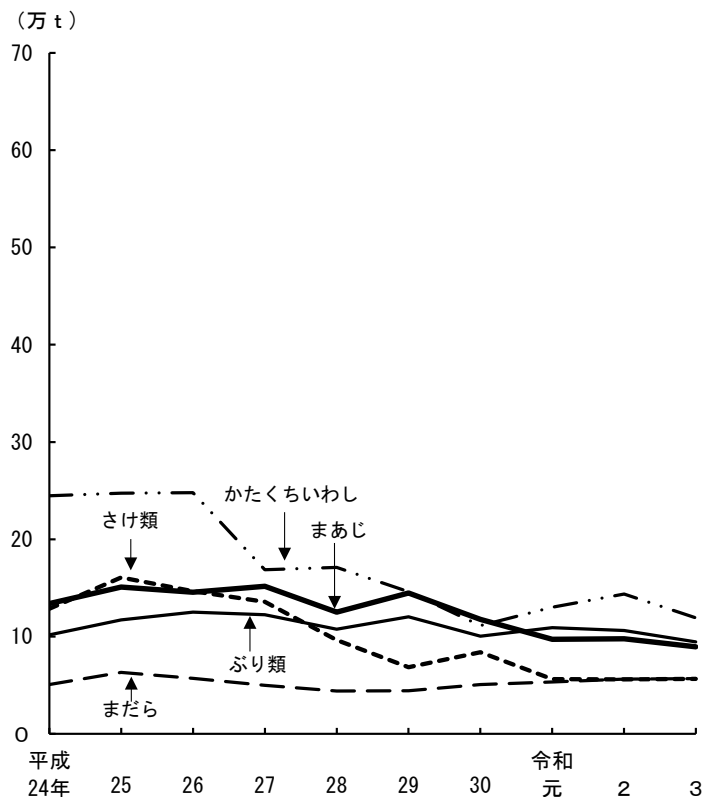


図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
(上位6位～10位)



3 海面養殖業

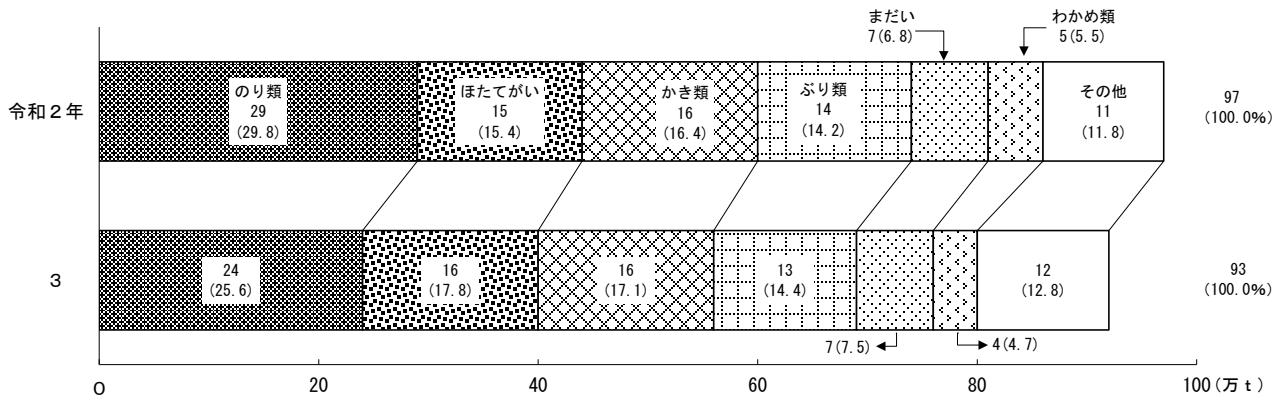
海面養殖業の収穫量は92万6,641 tで、前年に比べ4万3,008 t (4.4%) 減少した。

東日本大震災の影響で養殖施設に甚大な被害を受けた岩手県の収穫量は3万1,021 t、宮城県の収穫量は8万3,040 tであり、岩手県は前年に比べて602 t (2.0%) 増加し、宮城県は前年に比べて758 t (0.9%) 減少した。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、ほたてがい、まだいであり、減少した主な魚種はのり類、かき類、ぶり類、わかめ類であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が25.6%、ほたてがいが17.8%、かき類が17.1%、ぶり類が14.4%、まだいが7.5%、わかめ類が4.7%となった。

図5 海面養殖業主要魚種別収穫量



(1) 魚類

収穫量は25万6,199 tで、前年に比べ4,279 t (1.7%) 増加した。

ア ぶり類

収穫量は13万3,691 tで、前年に比べ3,820 t (2.8%) 減少した。

イ まだい

収穫量は6万9,441 tで、前年に比べ3,468 t (5.3%) 増加した。

これは、高知県等で増加したためである。

ウ ぎんざけ

収穫量は1万8,482 tで、前年に比べ1,149 t (6.6%) 増加した。

これは、宮城県で増加したためである。

(2) 貝類

収穫量は32万3,745 tで、前年に比べ1万5,295 t (5.0%) 増加した。

ア かき類

収穫量は15万8,789 tで、前年に比べ230 t (0.1%) 減少した。

イ ほたてがい

収穫量は16万4,511 tで、前年に比べ1万5,450 t (10.4%) 増加した。

これは、北海道、宮城県で増加したためである。

図6 海面養殖業魚種別収穫量の推移（魚類）

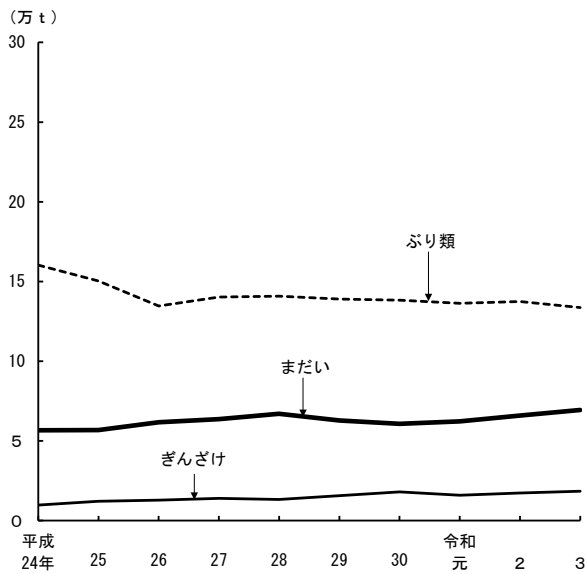
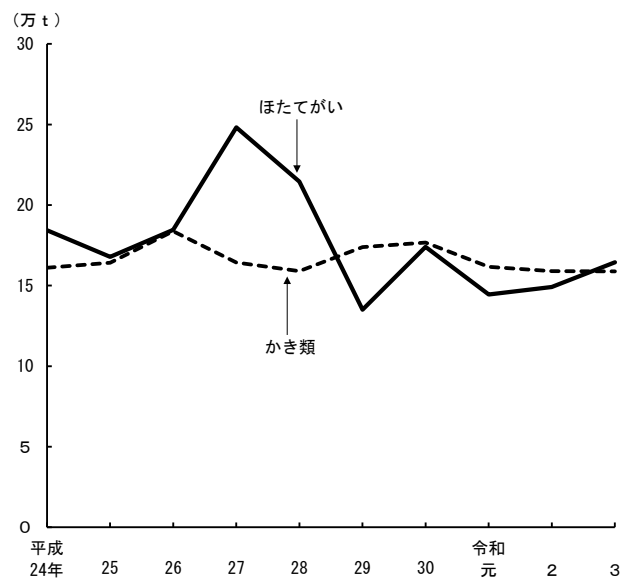


図7 海面養殖業魚種別収穫量の推移（貝類）



(3) 海藻類

収穫量は33万5,844 tで、前年に比べ6万2,472 t（15.7%）減少した。

ア のり類（生重量）

収穫量は23万7,255 tで、前年に比べ5万2,141 t（18.0%）減少した。

これは、佐賀県、兵庫県等で減少したためである。

イ わかめ類

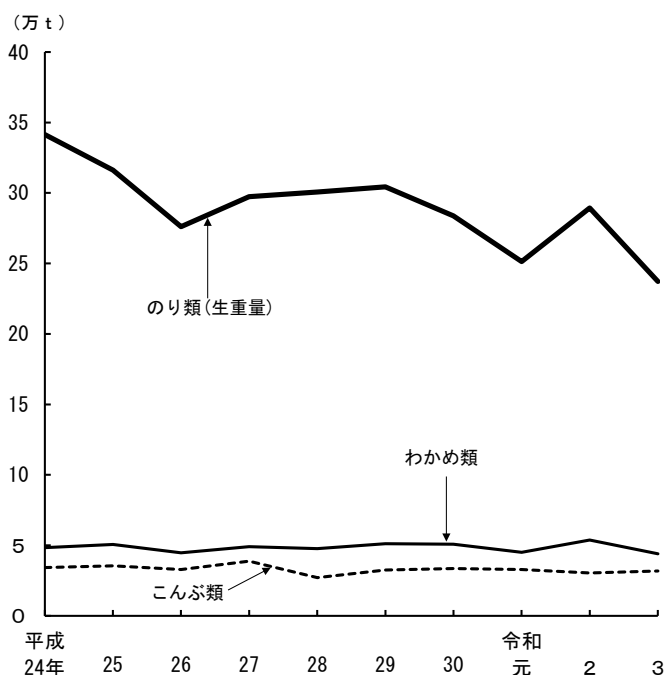
収穫量は4万3,972 tで、前年に比べ9,837 t（18.3%）減少した。

これは、宮城県、岩手県等で減少したためである。

ウ こんぶ類

収穫量は3万1,691 tで、前年に比べ1,387 t（4.6%）増加した。

図8 海面養殖業魚種別収穫量の推移（藻類）



4 内水面漁業

内水面漁業(全国の主要113河川及び24湖沼)の漁獲量は1万8,904tで、前年に比べ2,841t(13.1%)減少した。

(1) 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は8,307tで、前年に比べ2,214t(21.0%)減少した。

また、湖沼における漁獲量は1万596tで、前年に比べ628t(5.6%)減少した。

(2) 主要魚種別漁獲量

ア しじみ

漁獲量は9,001tで、前年に比べ107t(1.2%)増加した。

イ さけ類

漁獲量は4,873tで、前年に比べ1,736t(26.3%)減少した。

これは、北海道、山形県等で減少したためである。

ウ あゆ

漁獲量は1,854tで、前年に比べ230t(11.0%)減少した。

これは、神奈川県、滋賀県等で減少したためである。

エ わかさぎ

漁獲量は687tで、前年に比べ248t(26.5%)減少した。

これは、青森県、北海道等で減少したためである。

オ しらうお

漁獲量は375tで、前年に比べ132t(26.0%)減少した。

これは、青森県、茨城県等で減少したためである。

図9 内水面漁業主要魚種別漁獲量

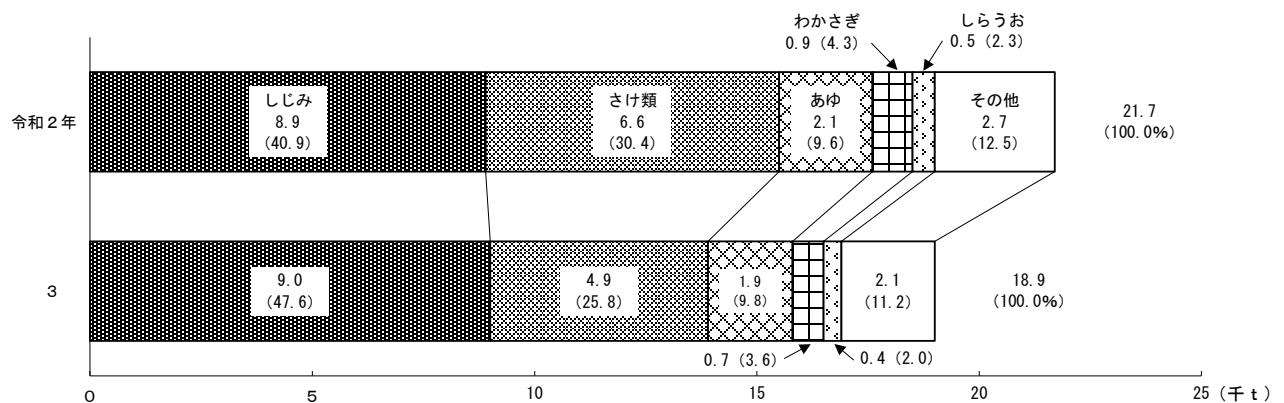
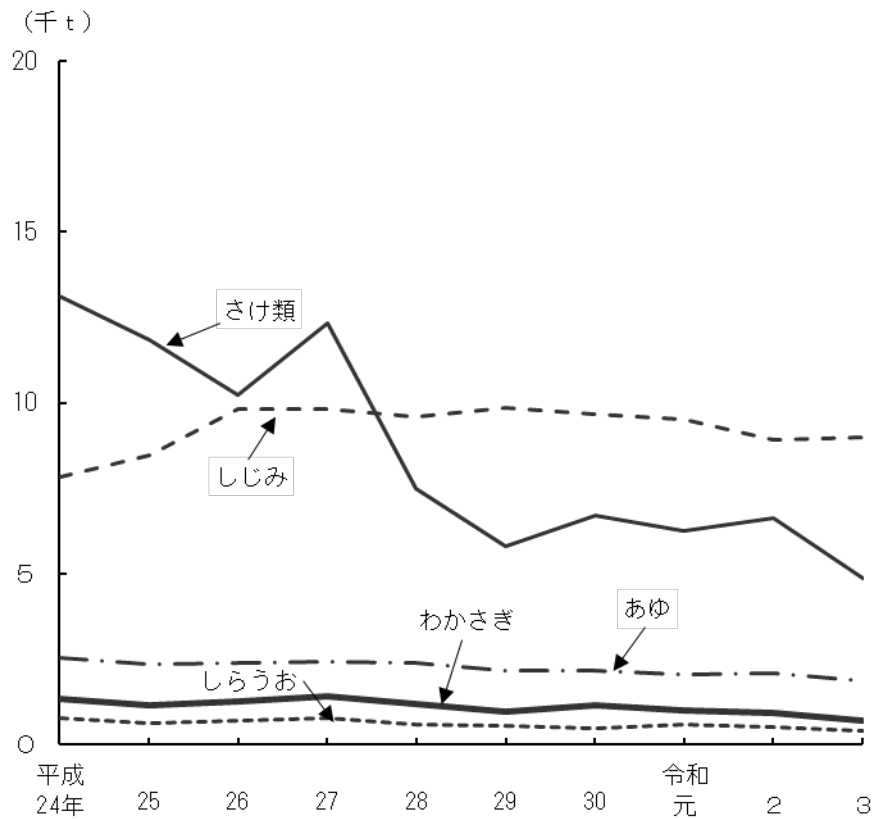


図10 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



5 内水面養殖業

内水面養殖業の収獲量は3万2,854 tで、前年に比べ3,767 t (13.0%) 増加した。

(1) うなぎ

収獲量は2万673 tで、前年に比べ3,867 t (23.0%) 増加した。

これは、鹿児島県、愛知県等で増加したためである。

(2) にじます

収獲量は4,161 tで、前年に比べ303 t (7.9%) 増加した。

これは、静岡県等で増加したためである。

(3) あゆ

収獲量は3,909 tで、前年に比べ135 t (3.3%) 減少した。

(4) こい

収獲量は2,064 tで、前年に比べ183 t (8.1%) 減少した。

これは、茨城県等で減少したためである。

図11 内水面養殖業主要魚種別収穫量

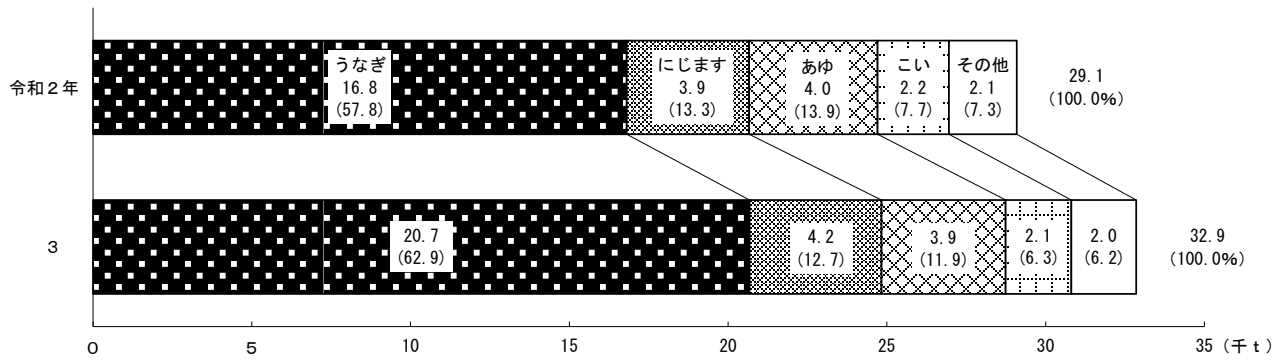
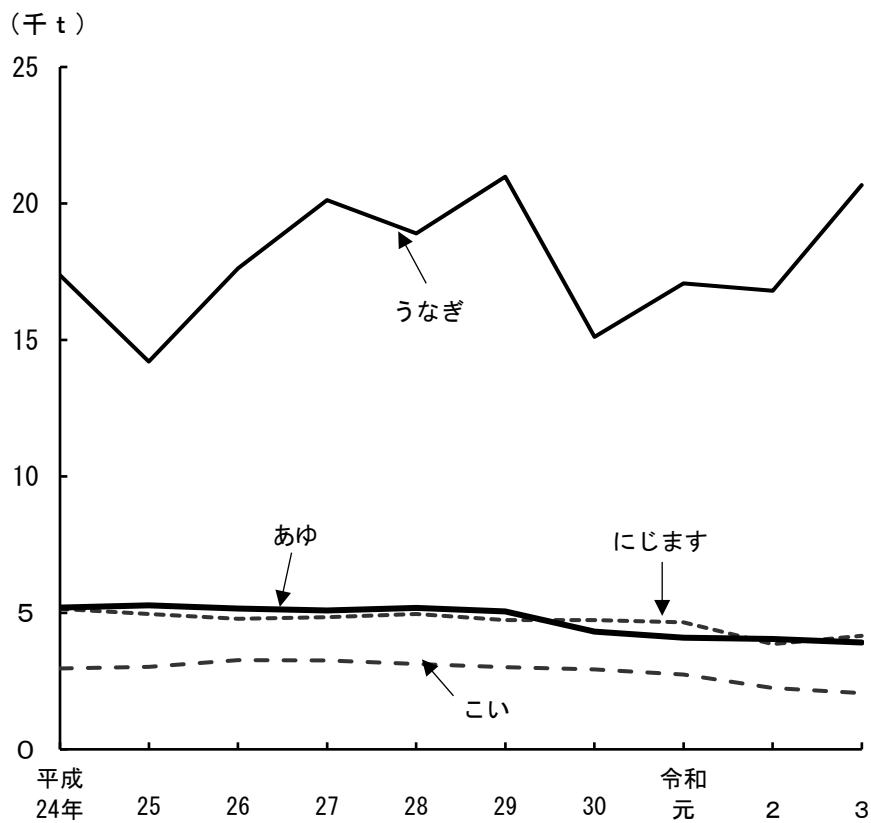


図12 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移



なお、観賞魚販売量について、にしきごいの販売量は257万84尾で、前年に比べ6万2,291尾(2.5%)増加した。